

(別記)

2021 年度田原市地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

田原市は、昭和 43 年の豊川用水の通水に始まり、集出荷施設の整備等各種補助事業による条件整備によって、電照菊、洋花に代表される施設園芸やキャベツ、ブロッコリーなどの露地野菜、畜産等の盛んな全国一の農業地帯である。

一方、稲作等の水田に関する土地利用型農業については、他産業への労働力の流出による兼業農家の増加や高齢化の進展、また施設園芸や畜産の専門化とあいまって、水稻作付農家の大半は自家飯米農家であるため担い手による作業受託や経営受託が増加している。

農業生産基盤の整備や、担い手への土地利用集積による経営規模拡大を推進しており、水田を受託する担い手が育成されつつある。その担い手の経営安定のため、水稻の収量・品質向上や価格安定を図る必要がある。

また、水田状態で水稻以外に露地野菜・飼料作物等を生産する農家が存在している。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

本市は、耕地面積の 79% を畑地が占めており、水田は 21% となっている。旧赤羽根町、旧田原町については、隣接している水田が多くあり、飼料用米、高収益作物、麦、WCS 用稲での作付が行われている。

高収益作物については、旧渥美町を中心に野菜生産が盛んであることから、野菜への転換を進めていく。

旧田原町東部地域では麦が新たに導入され、今後も面積拡大を図るとともに、団地化を進めていく。また、主食用米から飼料用米への転換を進めていくとともに、飼料用米では多収品種への転換が増加するよう、産地交付金のメニューの見直しをして、対応していく。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

本市は、旧田原町と旧赤羽根町で耕地面積の 30% が水田で、旧渥美町では 10% 程度の水田があり、地域により水田面積率が異なっている。

各地域で水稻を組み入れない作付体系が定着している水田や畑作物のみを生産し続けている水田がないか等を現地確認等で点検し、生産者への制度の周知等を行いながら水田農業高収益化推進助成の活用を図る。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

本市の主力品種はあきたこまち、コシヒカリなどである。

オペレーター等の大規模農家へ農地の利用集積を進め、経営力強化を図る。

(2) 備蓄米

該当なし

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

飼料用米を転換作物の中心的作物に位置づける。

飼料用米の生産拡大にあたっては、愛知県経済農業協同組合連合会等を通じた取組として出荷契約先を確保するが、地域の畜産農家からの要望があれば、直接相対取引にも応じていく。

当面は、主食用品種を用いた取組を主体とし、周辺環境を含めたカメムシ等による被害を抑制するための適切な病虫害防除に加え、肥効調節型肥料を用いた省力的かつ高収量栽培を推進し、飼料用米を低コストかつ安定的に生産できる体制を目指す。

ただし、自ら乾燥調製を実施して出荷できる農家については、多収品種による飼料用米の取組を進める。

イ 米粉用米

該当なし

ウ 新市場開拓用米

該当なし

エ WCS 用稲

本地域には、畜産農家が多く存在するので、需要に応じた生産を維持する。

オ 加工用米

該当なし

(4) 麦、飼料作物

麦については、新たな取組として二毛作に取り組み、水田の利用拡大を推進する。

飼料作物については、地域に畜産農家が多く存在する中、飼料自給率の向上のため、作付面積の拡大を推進する。

(5) そば、なたね 該当なし

(6) 高収益作物（園芸作物等）

ア キャベツ・ブロッコリー

本市は、冬春キャベツ・ブロッコリーの産地であり、販路が確保されている。

水田を活用した栽培は、湿害等のリスクを伴うものの、米の需給調整に資するものであるため、作付面積の拡大を推進する。

イ その他野菜

水田を活用した野菜づくりは米の需給調整に資するため、作付面積の拡大を推進する。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物等	前年度作付面積等 (ha)	当年度の作付予定面積等 (ha)	令和5年度の作付目標面積 等 (ha)
主食用米	882ha	850ha	800ha
備蓄米	0ha	0ha	0
飼料用米	40ha	62ha	64ha
米粉用米	0ha	0ha	0
新市場開拓用米	0ha	0ha	0ha
WCS用稲	5.4ha	5.6ha	6.0ha
加工用米	0ha	0ha	0ha
麦	5.6ha	9.4ha	9.6ha
大豆	0ha	0ha	0ha
飼料作物	2.9ha	2.9ha	3.0ha
・子実用とうもろこし	0ha	0ha	0ha
そば	0ha	0ha	0ha
なたね	0ha	0ha	0ha
高収益作物	5.8ha	8.0ha	9.1ha
・野菜	5.8ha	8.0ha	9.1ha
・花き・花木			
・果樹			
・その他の高収益作物			
その他			
・〇〇			
畑地化			

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
1	野菜（キャベツ、 ブロッコリー） （基幹作）	高収益作物（キャベ ツ、ブロッコリー） に対する助成	取組面積	(2年度) 5.5ha	(5年度) 8.6ha
2	野菜（とうもろこ し・さといも） （基幹作）	高収益作物（とうも ろこし・さといも） に対する助成	取組面積	(2年度) 0.3ha	(5年度) 0.5ha
3	飼料用米 （主食品種・多 収品種） （基幹作）	飼料用米の生産性・ 品質向上の取組に対 する助成	取組面積	(2年度) 26.9ha	(5年度) 64ha
4	飼料用米 （基幹作）	稲わら利用の取組 （耕畜連携）に対す る助成	取組面積	(2年度) 38.6ha	(5年度) 64ha
5	麦、飼料作物 （二毛作）	二毛作に対する助成	取組面積 （麦） （飼料作物） （計）	(2年度) 5.6ha 1.6ha 7.2ha	(5年度) 6.2ha 2.0ha 8.2ha
6	麦、飼料用米、飼 料作物、キャベ ツ、ブロッコリ ー、とうもろこ し、及びさといも （基幹作）	転換作物等拡大加算	作付拡大面積	(2年度) -ha	(5年度) 27ha
7	キャベツ、ブロッ コリー、とうもろ こし、及びさとい も（基幹作）	高収益作物等拡大加 算	作付拡大面積	(2年度) -ha	(5年度) 1.6ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。